第４部　調布市こころの健康支援センターの運営

Ⅰ　令和４年度事業総括

第１　課題及び基本方針への対応

相談支援と生活訓練事業、デイ事業、計画相談、障害者就労支援事業、本人・家族支援事業等を一体的に実施し、増加し続ける市民のメンタルヘルスの課題について、様々な機関と連携して取り組みました。

第２　重点項目の総括

１　発達障害者支援事業の充実

新たに障害特性に合わせた新規プログラムとしてラン＆ウォーク、イラスト、鉄道クラブを開始しました。興味・関心の持てる選択肢が広がることで外出する機会として活動が広げられた方もいました。また今後の通所先について言葉だけではなく、タブレット等を活用し、視覚的な説明や情報提供を行ったことでイメージをより膨らませられる方もおりました。その他デイルーム内の個別作業スペースを広げて、自身で過ごせる環境整備も行いました。

２　家族支援の充実

初回相談に家族のみでの来所された方も多く見られました。本人はすぐ支援にはつながらないものの、家族への継続相談支援、学習会から参加することで家族が病気のことや福祉制度のこと、当事者との向き合い方やコミュニケーションを学ぶといった機会を設けました。また親亡き後はどうなるのか等、心配されている方が少なくありません。関係機関とも連携をとりながらその不安を解消できるような具体的な学習の機会を検討していく必要性を感じました。

３　当事者からの発信の機会の創出

R4 年度は、家族学習会や就労準備プログラム、先輩の話を聞く会、就労講演会等にてこれまでの体験談や自分自身が得られた学びや気づきを参加者に発信いただくことができました。また福祉人材育成センターの※ヒューマンライブラリーにおいても自分語りを行うことで、自分自身と向き合う機会に、そして参加者においては障がい理解を促進できる場となりました。

（※ヒューマンライブラリーとは人を本に見立てて貸し出す図書館のようなイベント。差別や偏見の軽減を目的とし、少人数で物語を聞くように対話を行う。）

４　就労継続のための支援の充実

ここ数年で、市内外の就労移行支援事業所等の数が増えたことで、センターに求められる支援内容も、就活支援から定着支援へと変化してきています。実際に定着支援を行っている方は全体の６７％を占めています。働き続けるためには医療と連携した体調管理はもちろんのこと、日々の安定した生活が重要となります。ライズ登録者から講演会にて働き続けるための体験談や余暇の過ごし方などをお話いただく機会を作りました。また就労ミーティングやライズプログラムにも継続的に登録者が参加し、お互いの状況や気持ちを理解しあえる場となりました。

Ⅱ　個別事業

調布市より委託された市立の精神保健福祉事業の事業報告です。

第１　こころの相談事業

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	調布市こころの健康支援センター	他		市	○

結果の概要

○令和 4 年度の新規相談者数は 393 人であった。新規相談者の主訴は「日常生活に関する相談」が約 41%で、「就労について」が約 22%、「健康・医療について」が約 14%であった。

○新規相談に至るまでの経緯は関係機関からの紹介が全体の約 37%を占めており、ネット検索からセンターのホームページへ至り、相談の申込をした人は全体の約 16%であった。児童養護施設や家族のケアマネ、家族相談から本人の相談に繋がるケースも見られた。

○センター全体の相談延べ件数は 23,320 件だった。令和 4 年度末の継続相談者実人数は 685 人で、昨年よりも 18 人増加した。

実績等

１　相談状況

１．相談の概況(発達障害者支援事業、生活訓練事業および障害者就労支援事業を含む)

（1）相談のべ件数

相談延べ件数は 23,320 件（ライズ 4,608 件）であった。令和 2 年度に初めて相談延べ件数が 2 万件を超えてから、3 年連続で 2 万件を超え、過去最多となった（図 1)。

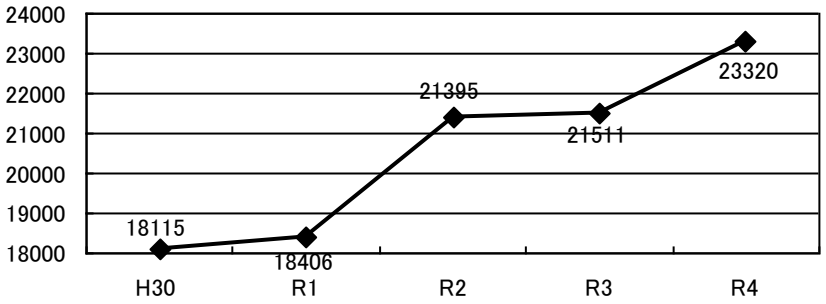

図1　相談の延べ件数

（２）相談人数の動向

匿名での相談を含む相談者実人数は 1,052 人であり、令和 3 年度から 20 人増加した。主訴の解消、転出、単発での匿名相談、死亡等で終結となったのは 367 人であった（この中には新規電話相談または初回面談のみで終結となったケースも含まれている)。終結数が前年よりも多かったが、匿名も含む相談者人数が増えたため、年度末時点での継続相談者数は 685 人とこれまでで最多となり、前年より 18 人多かった。

表1　過去5年間の相談者実人数等の動向

	H30	R1	R2	R3	R4
相談者数	919	895	983	1,032	1,052
新規相談者数	362	345	392	395	393
終結者数	383	309	321	365	367
年度末継続相談者数	536	586	662	667	685

２．新規相談の概況

（１）相談者の属性

新規相談者数は表 1 に示す通り、393 人であった。相談者は本人からが最も多く、およそ半分以上を占めている(表 2)。また、相談対象となる人の男女構成比は男性が 197 人で約 50%、女性が 178 人で約 45%と例年とは異なり、男性からの相談が多くなった（表 3)。なお、表 3 のうち不明となっているのは、家族や関係機関から匿名で相談があった際に、性別が不明であったものである。

表2 新規相談の申し込みをした人

	人数	割合
本人	222	56%
家族	93	24%
関係機関	78	20%
合計(人)	393	

表3　相談対象者の男女内訳

	人数	割合
男	197	50%
女	178	45%
不明	18	5%
合計(人)	393	

なお新規相談者の通院状況を表 4 に示す。約 66%の人が初回相談時、既に通院をしている。入院中にケースワーカー等から、退院後の関わりを希望されてつながるケースもわずかではあるがあった。未受診の人は約 14%、治療中断の人は約 5%であった。

表4 新規相談対象者の通院状況

	人数	割合
通院中	258	66%
未受診	55	14%
治療中断	21	5%
入院中	10	3%
不明	49	13%
合計(人)	393	

（２）相談者の主訴

新規相談の主訴の内訳を表 5 に示す。相談の主訴は、日常生活の送り方や日常生活を送るための支援を求めるものが約 41%、就労するまでの支援を求めるものが約 22%、医療機関に関するものが約 14%、社会復帰に関することが約 11%と、この 4 つで主訴の約 88%を占めた。就労の希望があった場合にも、生活リズムを整えたり、他者と安心して関わることのできる場を経験したりする等、生活や人との関わりを持つことの支援を行うこともあれば、一般就労を続けながら日々の生活面の支援を行うこともある。

新規相談では匿名の相談も多く、単発の電話相談で終結となることは例年多くみられる。匿名相談は 114 件と前年とほぼ同数であった。匿名での相談者の内訳は、本人が 55 件(令和 3 年度 61 件)、関係機関が 28 件(令和 3 年度 30 件)、家族・友人等が 31 件(令和 3 年度 28 件)となり、内容としては日常生活に関する相談が 45 件、医療についての問い合わせが 29 件、就労 12 件、社会復帰 11 件が上位を占めていた。

表5 新規相談の主訴内訳

	人数	割合
日常生活に関して相談したい	160	41%
就労したい	86	22%
社会復帰したい	43	11%
福祉サービスを利用したい	24	6%
医療について相談したい	56	14%
作業所について相談したい	3	1%
その他	21	5%
合計(人)	393	

新規相談に至る経路は、ホームページを見てからの相談が最も多く約 16%であった。市役所、病院・クリニックや障害者支援機関、ハローワークや社会福祉協議会等の関係機関から紹介されて相談に至るケースが約 37%を占めていた。令和 4 年度は、過去に相談し終結となった方などの再相談の件数が増加していた。

市役所は主に障害福祉課や市民相談からの紹介が多かった。表中の障害者支援機関とは、東京都発達障害者支援センターTOSCA（通称トスカ）や、市内外の就労移行支援事業所、相談支援事業所等であった。

表6　センターでの相談に至るまでの経路

種別	人数	割合	種別	人数	割合
ホームページ	63	16.0%	友人・知人のすすめ	0	0.0%
市役所	49	12.5%	市報	3	0.8%
病院・クリニック	28	7.1%	教育機関	0	0.0%
障害者支援機関	37	9.4%	保健所	3	0.8%
ハローワーク	12	3.1%	CoCoだより	1	0.3%
社会福祉協議会	14	3.6%	ふくしの窓	0	0.0%
再相談	43	10.9%	高齢者支援機関	3	0.8%
パンフレット	3	0.8%	その他	61	15.5%
家族のすすめ	1	0.3%	不明	71	18.1%
家族会	1	0.3%			
総計(人)				393	

３．生活支援事業相談者の概況（障害者就労支援事業利用者を除く）

相談者の内訳は表 7～8 に表している。男女構成は男性が 382 人で約 47%、女性が 411 人約 51%と、女性の方が多くなっている(表 7)。年代別では 30 代が最も多く 171 人（約 21%)、40 代 158 人（約 19%)、50 代 152 人（約 19%）となり、この 3 つの世代で約 60%を占めている結果となった（表 8)。近年は、10 代～20 代の相談件数も増加しており、30 代まで含めると約 42%を占める等、若い世代の相談が多くなっている。なお、表 8 において年齢が「不明」となっているのは匿名での相談を指している。

表7 相談対象者の男女内訳

	人数	割合
男	382	47.1%
女	411	50.7%
不明	18	2.2%
合計	811	

表8 相談対象者の年齢内訳

	人数	割合
～19	34	4%
20代	139	17%
30代	171	21%
40代	158	19%
50代	152	19%
60～64	47	6%
65～	37	5%
不明	73	9%
合計	811	

相談対象者のうち、通院している人は約 80%であった。未受診・未治療の人も約 8%いた(表 9)。未受診で継続相談をしている人のなかには、自身に発達障害の特性があるのではないかと感じながらも診断を受けることに抵抗感や不安感がある人や、一般雇用で生きづらさや働きにくさを抱えつつ、面接相談を活用して日常生活を送っている人も見受けられた。

表 9　相談対象者の通院状況

	人数	割合
通院中	652	80%
未受診	57	7%
未治療	7	1%
治療中断	30	4%
入院中	14	2%
不明	51	6%
合計	811	

なお、医療機関を受診している人の診断名内訳を表 10 に示している。複数の診断を受けている人については主診断を計上している。全体の中では、統合失調症等、気分障害等が約 24%で最も多かった。次いで発達障害等(約 19%)と続き、これら 3 つで全体の約 67%を占めていた。

続いて、相談内容と相談方法を表 11 に表す。相談総実施件数は 18,712 件であり、令和 3 年度に比べて約 2,000 件増加した。相談内容でみると、「日常生活に関する相談」においては相談件数が減少したが、その他の相談については相談件数が増加した。

表10 相談対象者の診断名内訳

種別	人数	割合	種別	人数	割合
統合失調症等	191	23.6%	器質性精神障害等	6	0.7%
気分障害等	191	23.6%	パーソナリティ障害等	8	1.0%
発達障害等	154	19.0%	摂食障害等	3	0.4%
神経症等	69	8.5%	アルコール依存症等	2	0.2%
精神遅滞	21	2.6%	診断名不明	153	18.9%
てんかん	8	1.0%	未受診	5	0.6%
総計(人)				811	

ここでは、こころの相談事業のうち、障害者就労支援事業を除いたもの(以下、「生活支援事業」とする)の相談状況を取り上げる。生活支援事業の年度末時点での継続相談者実人数は 478 人であった。相談者数が増加する傾向は続いている (図 2)。

生活支援から就労支援へ移行するなかで、生活支援係と就労支援係がチームを組んで継続的に関わることもある。ご本人の望む形で就労を目指す過程において、勤務日数の少ないアルバイトやパート等に取り組む、就労移行支援事業所を利用するなど、個々のペースに合わせた対応が必要である。また、就労の継続が難しく退職となった際には、ケースに応じて再度生活支援係で生活面、体調面の立て直しに重点を置いた支援に移ることも選択肢の一つとしてあり、センターにおいて就労支援と生活支援を包括的に支援出来ることは、メリットであるとも言える。

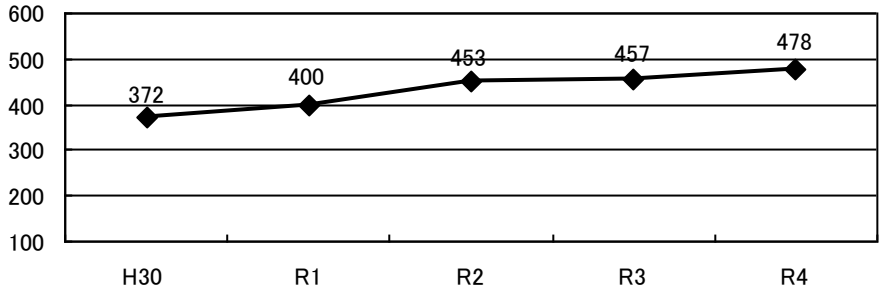

図2　生活支援事業における相談継続者実人数(年度末時点)の推移

表11 相談内容および方法の内訳

		令和3年度	令和4年度			令和3年度	令和4年度
日常生活に関する相談（家事，余暇，身辺のことなど）	電話相談	4008	3903	作業所に関する相談	電話相談	238	288
	来所相談	2178	2169		来所相談	65	57
	訪問活動	461	571		訪問活動	88	93
	関係機関連絡	1631	1655		関係機関連絡	397	412
	その他	345	240		その他	0	1
	小　計	8623	8538		小　計	788	851
健康・医療に関する相談（対人関係，医療機関・薬のことなど）	電話相談	805	1270	就労に関する相談	電話相談	132	221
	来所相談	194	193		来所相談	73	81
	訪問活動	152	260		訪問活動	7	47
	関係機関連絡	827	1050		関係機関連絡	87	127
	その他	24	23		その他	5	0
	小　計	2002	2796		小　計	304	476
福祉サービスに関する相談（手帳，通院医療，自立支援給付相談など）	電話相談	998	1151	その他	電話相談	2	0
	来所相談	480	522		来所相談	1	0
	訪問活動	338	443		訪問活動	0	0
	関係機関連絡	1941	2499		関係機関連絡	0	0
	その他	54	30		その他	0	0
	小　計	3811	4645		小　計	3	0
社会復帰に関する相談（デイ事業，その他）	電話相談	865	1037	総計		16724	18712
	来所相談	233	231	開所日数（日）		294日	294日
	訪問活動	8	10	※訪問活動には同行支援を含む			
	関係機関連絡	63	116	※その他はCoCoだよりの送付などの郵送等を指す			
	その他	24	12				
	小　計	1193	1406				

分析・課題

〇新規相談者は 393 人であった。初回面接まで最長で約 3 週間お待ちいただく状況で、令和 3 年度とほぼ同じ状況が続いている。相談ニーズが高い状況は依然として続いていると考えられる。

〇センター全体でみると相談者実人数については 1,052 人となり、昨年に引き続き 1,000 人を超えた。相談総件数においても過去最高となった。

〇相談傾向としては、若年世代の相談が増えており、10 代～30 代の若者世代の相談は全体の 40%を超えていた。また、インターネットの情報などから、「自分も発達障がいではないか？」と不安になって相談に繋がるケースも多くみられた。すでに教育機関、子ども若者相談機関とつながっている方もおり、今後さらなる支援の連携が求められている。

〇相談業務は 1 対 1 での対応が主となるが、負担が過重になることを防ぐために、朝会や個別進行会議等で情報を共有し、職員同士が日頃から相談し、気軽に話し合える雰囲気づくりに取り組む等、チーム支援を心掛けた。また、定期的に嘱託医である精神科医や保健師による相談およびスーパーバイズを実施した。

第２　生活訓練事業

結果の概要

〇契約者数が事業開始後、最も減少した。終了者のうち大半の方が、グループワークの利用や継続面談を経て就労継続Ｂ型や就労移行、就労にステップアップしており利用の効果があったと言える。

〇新型コロナウイルス感染防止のため、密を避ける環境配慮やプログラム内容の工夫を継続しながらも、調理や歌などを再開した。

〇障害者虐待防止・権利擁護研修を実施した。

実績等

１　生活訓練事業全体の実績

（１）生活訓練契約者の状況

	令和３年度	令和４年度
年度末契約者数	46 人	32 人
新規契約者数	23 人	19 人
終了者数	16 人	34 人
体験者実数	40 人	32 人

年度末契約者の性別と年齢

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	合計	割合
男	4 人	1 人	2 人	3 人	1 人	11 人	34%
女	3 人	7 人	5 人	4 人	2 人	21 人	66%
合計	7 人	8 人	7 人	7 人	3 人	32 人	

新規契約者数は平成 28 年度～30 年度にかけて 30 人前後で推移してきた。令和元年度より半数程度に減少の後、徐々に増加し令和３年度は増加したが、令和４年度は再び減少している。また、終了者が増加したこともあり、年度末契約者数が大幅に減少している。

男女比は、男性が３割強、女性が７割弱。年齢は 20～60 歳台と幅広く、平均年齢は 41 歳である。30 代女性が一番多い。

（２）生活訓練終了者の状況

	令和３年度	令和４年度
就労継続支援Ｂ型事業所	6 人	14 人
就労移行支援事業所	3 人	6 人
プログラム・デイルーム	4 人	3 人
在宅	2 人	3 人
就労	0 人	3 人
転居	0 人	3 人
入院	1 人	1 人
不明	0 人	1 人
合計	16 人	34 人

終了者34人のうち､2年の期限を満了した方は6人で､1年延長し3年の期限を満了した方は9人だった。また令和2年度に2年ないしは3年の期限を迎えた方は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い特例として利用期間を追加で1年延長できるという措置が取られたため、3年目の延長＋1年で4年間利用して終了された方が3名いた。

2年（あるいは3年）の期限満了前に契約終了された方は16人だった。終了事由は、期限前に就労移行支援事業所や就労継続支援B型事業所へのステップアップが進んだ方が主で、その他、転居や出産、進学を目指して等、様々な理由であった。

利用中から就労継続支援B型事業所や就労移行支援事業所との併用を開始し､徐々に負荷を増やしながら移行していく方が多い。「プログラム・デイルーム」に計上されている人は、デイ事業の利用に切り替えてセンターへの通所を継続している人である。「在宅」に計上されている方は、通所はないが相談は継続されている方である。

（３）生活訓練利用者数

	令和3年度	令和4年度
延べ利用者数	2,492人	2,114人
開所日数	294日	294日
１日平均（　）内は体験含む	8.5人 (9.4人)	7.2人 (8.2人)

※開所日数に土曜日も含む。

利用者数は、グループワークやプログラム、面談等で来所した人、自宅訪問や通所先や医療機関への通院同行をした人の数を計上している。

（４）生活訓練相談方法内訳

	令和3年度	令和4年度	割合 (令和4年度)
電話相談	1,288件	1,174件	47%
面接相談	539件	539件	22%
訪問活動	193件	135件	5%
関係機関連絡	646件	623件	25%
その他	39件	35件	1%
合計	2,705件	2,506件	

（５）生活訓練相談内容内訳

	令和3年度	令和4年度	割合 (令和4年度)
日常生活に関する相談	1,146件	851件	34%
健康・医療に関する相談	303件	302件	12%
福祉サービスに関する相談	398件	559件	23%
社会復帰に関する相談	587件	555件	22%

作業所に関する相談	231 件	204 件	8%
就労に関する相談	40 件	35 件	1%
その他	0 件	0 件	0
合計	2,705 件	2,506 件	

契約者数の減少に伴い、相談件数も減少しているが、年度末契約者数が 40 人だった令和 2 年度に比べ、相談件数が 400 件以上増加している。

方法は「電話相談」が約半数を占め、次に「関係機関連絡」が続いている。また、「訪問活動」として、作業所等への見学同行や通院同行を行った。令和 4 年度契約者中 3 人はグループワークには登録せず訪問支援だけ利用し、外出の練習等、訪問して生活訓練を行った。

内容は、「日常生活に関する相談」が最も多く、「福祉サービスに関する相談」が増加している。

分析・課題

〇契約者が減少しているのが課題。しかし、契約者の減少率に対して相談件数の減少率が低い。理由としては、通所中からステップアップ後の通所先探しや見学同行、振返り面談等、厚めの支援を行うケースが多いことが言える。

〇通所中ないしは利用期限を迎え終了した後、就職や就労継続支援 B 型事業所や就労移行支援事業所にステップアップされる方が多い。このことから、当センターは中間施設としての機能を果たしているものと考えられる。

〇生活訓練事業は、障害福祉サービスであり、世帯収入が基準を超えると利用料が発生する。そのため、費用負担がネックになり気軽に利用日数や同行支援を増やしにくい場合がある。特に所得のある配偶者がいる女性に多く見受けられる。

〇利用期限があるため、体調が整わず継続通所が困難な方には、登録一時終了やデイ事業の利用を提案し、本人にとって適切な時期に有効に利用ができるよう配慮している。

２　グループワーク

結果の概要

〇5 つのグループを複数の担当スタッフで運営している。新型コロナウイルスの感染防止に留意しながら、所属するメンバーにより求められるプログラムを提供した。

実績等

＜グループワーク参加人数＞

	開所日数	延べ参加人数（内体験者数）	1 回当たりの平均人数
ミント（火・木午前）	96 日	551 人（103 人）	5.7 人
タイム（水午前）	50 日	417 人（43 人）	8.3 人
ジャスミン（木午前）	49 日	328 人（52 人）	6.7 人
ラベンダー（火午後）	49 日	337 人（49 人）	6.9 人
ユーカリ（金午後）	50 日	277 人（22 人）	5.5 人
合計	294 日	1,910 人（279 人）	6.5 人

〇ミントは就労を目指す人のグループで、唯一週 2 回の活動をするグループである。就労に関連した施設の見学や勉強会といった情報を得る機会や月のプログラム内容を決めるミーティングでの進行や書記、プログラム当日の準備や運営を担ったりと、役割をもち主体的に参加する機会を設ける等、就労を意識したプログラムを実施している。年度内に 9 人が終了し、少人数での活動が続いた。

〇タイムは、新規登録者も増え、グループ内で最もメンバーが多かった。積極的に話をしない人でも無理なく過ごせる雰囲気がある。メンバー同士のコミュニケーションが増えている。

〇ジャスミンは女性のみの主婦が多いグループとして機能している。メンバー間の会話も多く、互いの安心できる居場所となっている。

〇ラベンダーは終了と新規で大きくメンバーの入れ替えがあった。午後開催であるため、生活リズムが整いにくい人が通い始めやすく、安定して通所できる方が増えている。

〇ユーカリは男性のみのグループである。メンバーはおおむね 40 代以降の方が多かったが、20 代や 30 代の方も参加されるようになった。年度内に 6 人の終了者がおり、年度終盤は少人数での活動となった。

分析・課題

〇グループワークは複数の担当スタッフによって多角的なアセスメントを行えるメリットがあり、相談担当とも連携することで個別支援に活かすことができている。グループ力を最大限に活かしたプログラムを提供することで、一人ひとりが経験を通して自己理解を深め、今後の進み方を考える機会となっている。

〇複数人が同時期に終了を迎え、一時的にメンバーが減少しグループ活動が難しくなることがある。

３　選択制プログラム・合同プログラム

結果の概要

〇社会参加や病状の安定、仲間との交流を目的として、新型コロナウイルス感染防止に留意しながらボランティアの協力を得て多様なプログラムを実施した。

〇選択制プログラムは生活訓練登録者、デイ事業登録者が利用可能である。内、合同プログラムは、ライズ登録者も利用が可能で、就労準備に必要なプログラムを提供した。

実績等

（１）実施状況

第３　デイ事業　２－（１）　実施状況参照

（２）利用状況

生活訓練登録者の延べ利用人数	582 人

第３　デイ事業

結果の概要

〇選択制プログラムは、デイ事業登録者だけではなく、生活訓練事業契約者も利用可能となっている。そのうち、合同プログラムはライズ登録者も利用可能で、就労準備に必要なプログラムに参加する等、各事業登録者が交流できる機会となっている。

〇令和 4 年度より、新型コロナウイルスの感染対策を行いながら合唱・うたごえ喫茶のプログラムを定期再開した。その他、イラスト・鉄道クラブ・ラン＆ウォークの 3 プログラムも新しく導入した。

実績等

１　デイ事業全体の実績

（１）登録者数(生活訓練契約者を除く)

登録者総数（令和３年度末）	登録者総数（令和４年度末）	新規登録者数	実体験者数	終結者数
124 人	149 人	38 人	136 人	33 人

選択制プログラムの延べ利用者　1,877 人（令和３年度＋209 人）と、デイルーム延べ利用者 1,152 人（令和３年度－578 人）を合わせた 3,029 人（令和３年度－369 人）が、生活訓練契約者を除くデイ事業利用者の延べ人数である。選択制プログラムは、新型コロナウイルスの感染者数の減少に伴いプログラムのキャンセル待ちが増えてきたことから、感染状況を考慮しつつ、各プログラムで徐々に参加定員を広げていった。その為、選択制プログラムに参加できる利用者数が増加し、デイルームのみの利用者数が減少したと考えられる。また、感染症対策としては、デイルーム内では令和３年度同様フリーペースではテーブルの間隔を広げ、１テーブル１人と制限を設けた。個別スペースも、一席毎につい立てを設置し、適宜消毒を行った。選択制プログラムでも、その都度適宜消毒や十分な広さを確保し活動を行った。その為、施設内での感染は見られなかった。

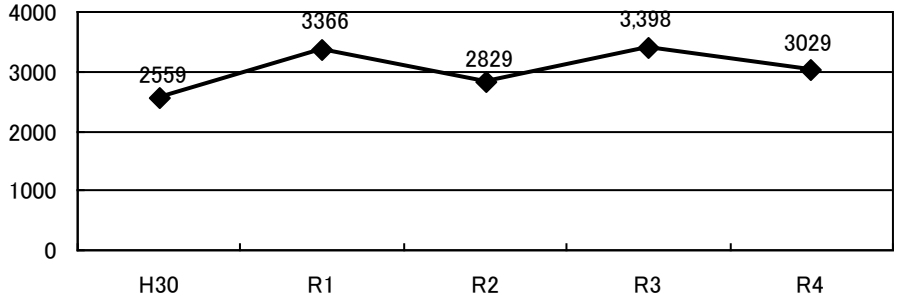

図　デイ事業利用者のべ人数の推移

分析・課題

〇病状不安定な方や長期ひきこもりの方の社会参加第一歩の場としての利用があり、有期限で利用料負担のある生活訓練事業を補完する市独自事業として効果を上げている。

〇今後も感染症対策を行いながら、利用者の安心できる居場所や作業に集中できる通所先としてデイ事業の提供を継続していく。

２　選択制プログラム・合同プログラム

結果の概要

〇生活訓練事業と選択制プログラムを併用する利用者も多いことから、生活訓練終了後にデイ事業に登録する利用者も増加している。

〇令和４年度は、新型コロナウイルスの感染者数の減少に伴いプログラムのキャンセル待ちが増えてきたことから、感染状況を考慮しつつ、各プログラムで徐々に参加定員を広げていった。

〇音楽（うたごえ喫茶・合唱）プログラムも参加人数を通常よりも制限し換気を行いながら再開した。

〇イラスト・鉄道・ラン＆ウォークの３つのプログラムを新たに導入した。

〇新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、以前行っていた布田わくわく広場まつりを活動展という形で実施した。その際、プログラムの一環としてテント・パネル設営や受付などをボランティアとしてこころの健康支援センターの利用者から集い、事前オリエンテーション・前日準備・当日という３部制で行った。

実績等

（１） 実施状況

・生活訓練登録者、デイ事業登録者、体験者合算

・★は合同プログラム。生活訓練登録者、デイ事業登録者、体験者合算

		プログラム	開催日程	開催回数	延べ参加人数	1 回当たり平均人数
1	パソコン	パソコンはじめの一歩	第 1、2 金曜日	23 回	195 人	8.4 人
2		ビジネスパソコン ★	第 1、2 木曜日	21 回	293 人	13.9 人
3		MOS コース ★	第 3、4、5 木曜日	27 回	142 人	5.2 人
4	スポーツ	リラックスヨーガ	第 2 火曜日	13 回	155 人	11.9 人
5		卓球	第 1 火曜日、第 3 月曜日	20 回	163 人	8.1 人
6		楽スポ	第 2、4 水曜日	11 回	51 人	4.6 人
7		ストレッチ体操	第 4 火曜日	12 回	151 人	12.5 人
8		ラン＆ウォーク	第 4 水曜日	11 回	46 人	4.1 人
9	音楽	うたごえ喫茶	最終金曜日	12 回	105 人	8.7 人
10		合唱	第 3 水曜日、最終月曜日	24 回	177 人	7.3 人
11	書道	毛筆	第 2 月曜日	12 回	97 人	8 人
12		硬筆 ★	第 3 火曜日	12 回	64 人	5.3 人
13	クラフト	アロマ	第 3 金曜日	12 回	108 人	9 人
14		ハンドメイドクラブ	第 1 月曜日	11 回	66 人	6 人
15	SST	SST テキストコース★	年 3 クール	9 回	40 人	4.4 人
16		SST	第 3 水曜日	12 回	57 人	4.7 人
17	就労	就労準備プログラム ★	第 3 金曜日	9 回	54 人	6 人
18		作業所見学プログラム	1 クール 2 回	2 回	17 人	8.5 人
19	その他	ユースプログラム	第 3 土曜日	12 回	57 人	4.7 人
20		ママカフェたんぽぽ	奇数月第 2 金曜日	12 回	16 人	1.3 人
21		カモミールの会 ★	第 4 月曜日	12 回	28 人	2.3 人
22		先輩の話を聞く会 ★	11 月	1 回	9 人	9 人
23		大掃除	12 月	1 回	5 人	5 人
24		畑	6 月、10 月	2 回	13 人	6 人
25		めだか	5 月	1 回	0 人	0 人
26		ボランティア (布田わくわく活動展)★	12/8(ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ)、17、18	3 回	24 人	8 人
27		生活クラブ＋		11 回	29 人	2.6 人
28		イラスト		10 回	70 人	7 人
29		鉄道クラブ		11 回	54 人	4.9 人
合計				329 回	2,286 人	7 人

分析・課題

〇ヨーガ・ストレッチ体操・アロマは自分自身の体調と向き合うことができるプログラムとして人気があり、定員を増やして行っているが、常に満員の状況である。

〇火曜日の卓球は、事業協力員の参加が難しくなり令和 4 年度で終了することとなった。月曜日の卓球は、令和 5 年度も定員を増やしながら継続して行う予定。

〇ママカフェたんぽぽは、新型コロナウイルスの影響により、学校や保育園、幼稚園が休校、休園またはクラス閉鎖、オンライン授業等により外出できないことが多くあり、参加者が少なかった。病気や障がいのある母親が悩みを共有できる場所は少ないため、参加人数が少なくても継続していくこととする。

〇ビジネスパソコン・パソコンはじめの一歩・就労準備プログラムへの参加者が増加しており、就労を見据え

た利用が増えてきている。

〇令和 4 年度より導入したラン＆ウォークは、当初スポーツプログラムとしてランニングを活動内容としていたが、ウォーキングを希望する利用者もいたことから、ランニングクラブからラン＆ウォークへ名称と活動内容を変更した。鉄道クラブは、参加人数は少ないが利用者からは他にこのように話せる場所がないということで、毎回参加している利用者が多く、他の活動には出られないが鉄道だけは来ているという利用者もいる。

〇布田わくわく活動展では、利用者 14 名がボランティアとして参加した。オリエンテーションを行ったうえでパネルやテントの力仕事も担ってもらい、布田わくわく実行委員からは助かったという声が多く、参加した利用者からも、人や地域の為に活動できて良かったという声が多く挙がった。このことから、当事者の活躍の場として、令和 5 年度に新たにボランティアクラブを導入していく予定。また、以前よりユースプログラムを卒業した利用者も参加できるゲームプログラムが必要という声が挙がっており、令和 5 年度より年齢問わず参加できるゲームクラブを導入所定。

（２）デイ登録者の利用状況

開催日数	開催回数	延べ参加人数
242 日	329 回	1,877 人

３　デイルーム利用

結果の概要

〇開所時間：平日 9 時～16 時 30 分（食事 12:00～12:50）

〇プログラム前後の休憩、食事、仲間との交流、自習や趣味活動等に利用されている。

実績等

（１）　実施状況

開所日数	デイルーム･個別スペース延べ利用者数
243 日	1,152 人

分析・課題

〇生活リズムの安定や通所先として定期的に利用する方や、プログラム等には参加せず自分のペースで好きなように過ごすことを望まれる方の利用も増えている。

〇個別スペースは集中的に利用されることが多く、ライズ利用者も利用している。フリースペースでは、利用者同士の交流が見られる。目的に合わせて利用されていると考えられる。

〇今後新型コロナウイルスの終息に合わせて、感染症対策を行いつつも多くの利用者に活用されるようデイルーム内の配置を検討していく。

〇今後当事者の活躍の場として、デイルームに利用者作品を展示する常設のギャラリーを設置予定。利用者間で快く利用できるよう展示方法を検討していく。

第４　障害者就労支援事業「就労支援室ライズ」

結果の概要

〇長年継続して担当していた生活支援中心の相談者を、生活支援係にてサポートする形に整理したこともあり、ライズ登録者数は減少した。

〇相談者の中には、ライズ登録に必要な主治医の意見書をもらう前段階の生活支援・就職準備期間の方も多いため、ライズ登録者数が相談者数より少なくなっている。

〇就職準備者の減少に伴い、就労支援室を個別スペースへ変更したことで、利用者数が減り、就職準備支援件数の減少につながった。

〇グループホームや集合住宅への転居の相談が多く、生活面の支援件数が大きく増加した。

〇就労支援関係の会議や意見交換会に積極的に参加し、職員の支援力向上を目指した。また就労支援員ならではの悩みを共有し、今後の支援に生かしていくことを目的に、調布市内、市外の就労支援機関やハローワーク府中との勉強会を開催した。

実績等

１　ライズ登録者及び相談者

（１）相談者（実数）

令和 3 年度	令和 4 年度
255 人	259 人

（２）ライズ登録者（実数）　　※登録は年度更新

令和 3 年度	令和 4 年度
197 人	186 人

（３）ライズ登録者の状況

〈年代別〉

年齢	人数	割合
～19	0 人	0%
20 代	28 人	15.1%
30 代	55 人	29.6%
40 代	51 人	27.4%
50 代	41 人	22.0%
60～64	9 人	4.8%
65～	2 人	1.1%
合計	186 人	

〈支援内容〉

支援内容	人数	割合
職場定着支援	124 人	66.7%
就職活動･就職準備支援	49 人	26.3%
生活支援	13 人	7.0%
合計	人	

〈障害者雇用の割合〉

	人数	割合
オープン	115 人	92.7%
クローズ	9 人	7.3%
合計	124 人	

〈疾患名〉

疾患名	人数	割合	疾患名	人数	割合
発達障害等	62 人	33.3%	器質性精神障害等	4 人	2.2%
統合失調症等	60 人	32.3%	パーソナリティ障害等	2 人	1.1%
気分障害等	38 人	20.4%	アルコール依存症等	1 人	0.5%
神経症等	8 人	4.3%	摂食障害等	0 人	0%
てんかん等	7 人	3.8%	不明･未受診	0 人	0%
精神遅滞等	4 人	2.2%	合計	186 人	

２　就職件数（登録者）

（１）就職者実績

	内容	令和 4 年度	オープン	クローズ
①	新規就職者（就労継続支援 A 型事業所含む）	17 人	13 人	4 人
②	①　の内、年度末継続者	12 人	10 人	2 人

※一般求人では障がいを職場には開示せず（クローズ）働くことに対して、障がい者求人では職場に障がいを開示して（オープン）、体調や勤務時間に配慮してもらいながら働くことができる。

	オープン	クローズ
今年度就職者の仕事内容	事務・庶務（データ入力、資料作成、印刷、電話応対等）、清掃、品出し、軽作業　等	清掃、コールセンター、SE

（２）年齢

新規就職者

20 代	4 人
30 代	3 人

40 代	3 人
50 代	7 人
60 代	0 人
合計	17 人

（３）勤務形態

新規就職者

勤務時間／雇用形態	正規雇用	正規以外	小計
一般(週 30 時間以上)	2 人	11 人	13 人
短時間(週 20 時間以上)		4 人	4 人
短時間(週 20 時間未満)		0 人	0 人
合計	2 人	15 人	17 人

３　支援件数（登録者及び相談者）

（１）方法別件数

	令和 3 年度	令和 4 年度	備考
面接	1,798 件	1,739 件	
就労プログラム	296 件	245 件	※4 就労プログラム参照
就労支援室利用	242 件 実人数 15 人	64 件 実人数　8 人	
訪問	587 件	669 件	職場、作業所、医療機関等
電話・メール等	1,823 件	1,797 件	
合計	4,746 件	4,514 件	

（２）内容別件数

内　容		令和 3 年度	令和 4 年度
就労支援	職業相談	204 件	181 件
	就職準備支援	1,216 件	971 件
	職場開拓	65 件	42 件
	職場実習	45 件	55 件
	職場定着支援	2,069 件	1,912 件
	離職支援	44 件	83 件
	小計	3,643 件	3,244 件
生活支援	日常生活支援	914 件	973 件
	安心した職業生活を続ける為の支援	108 件	134 件
	豊かな社会生活を築く為の支援	69 件	143 件
	将来設計相談	53 件	114 件
	小計	1,144 件	1,364 件
	合計	4,787 件	4,608 件

【支援内容】どの段階からも相談を受けています。

職業相談	主に一般就労前の仕事に関する相談全般（既就職者からの復職、転職相談を含む。）
就労準備支援	利用者の適性、能力把握のアセスメント、面接訓練、履歴書の書き方等
職場開拓	ハローワーク、職場見学、面接等への同行
職場実習	実習先の開拓、実習前の打ち合わせ、実習後の振り返り
就労定着支援	就職後の本人及び事業主への働き続けるための支援 職場の人間関係や職業生活上の体調の相談
離職支援	離職に関する相談、調整（本人、企業、家族）
生活支援	こころの健康支援センター相談事業と連携し、生活面、医療面、福祉制度の利用、ご家族に関すること等の相談や支援

４　就労プログラム（登録者及び相談者）

プログラム	実施回数等	参加人数
就労ミーティング	年 5 回実施	60 人
就労ＳＳＴ	年 6 回実施 「就労場面でのコミュニケーション」	26 人
外出プログラム（5 月）		15 人
ボッチャ（7 月）		11 人
ストレッチ体操（9 月）		6 人
体験談発表（講演会・家族学習会）		15 人
女子会*アロマ（11 月）		6 人
スポーツ*卓球・ダーツ（11 月）		7 人
クリスマス会（12 月）		12 人
うたごえ喫茶（1 月）		11 人
伊藤先生との座談会（3 月）		10 人
就労準備プログラム		25 人
ビジネスパソコン教室		49 人
書道教室（硬筆）		1 人
カモミールの会		1 人
ユースプログラム		3 人
先輩の話しを聞く		4 人
大掃除		1 人
SST テキストコース		4 人
わくわく活動展ボランティア		7 人
畑大作戦		1 人
合計		275 人

※SST…社会生活スキルトレーニング

５　連絡会の開催及び出席

・調布市障害者就労支援実務者会議（事務局）
・東京都障害者就労支援関係機関意見交換会（東京都主催）
・障害者雇用連絡会議（ハローワーク主催）
・多摩地域障害者就労支援事業連絡会（任意の会）
・多摩職業リハビリテーションネットワーク情報交換会
・調布市高次脳機能障害者支援機関連絡会

６　職員研修等

・7 月 6 日　ハローワーク府中との情報交換会
・10 月 18 日　地域生活・就労支援センターちょうふだぞうとの座談会
・1 月 31 日　障害者就業・生活支援センターオープナーとの座談会
・その他　就業支援実践研修、メンタルヘルス講習会等に参加

分析・課題

〇専門学校や大学在学中等の若年層の就労相談が増加しているため、多様な社会資源や福祉サービスを提案しながら、一人一人に合った就職準備・活動支援を行っていくことが求められる。さらにどのような場で作業遂行能力のアセスメントができるのかを検討する必要がある。

〇企業の定年年齢が引きあがる中、今後は 60 歳以上の就職活動者が増加することが考えられるため、ハローワークとのさらなる連携が求められる。

〇相談者の高齢化に伴い、親の介護についての相談や親亡き後のサポート体制についての相談が増えているため、他機関との連携が今以上に必要となる。

〇就労定着支援事業所や他市の就労支援機関からの引継ぎは、相談者の状況に沿った定着支援が継続できるよう、よりよい引継ぎの時期や方法、内容について、本人や連携先の事業所と話し合う場が重要である。

〇今後の法改正による法定雇用率引き上げや特定短時間雇用（週 10～20 時間未満）に向けた支援サポート体制の構築を目指す。

第５　発達障害者支援事業「ぽぽむ」

結果の概要

〇生活支援事業の相談者は令和 3 年度 143 人に対し、令和 4 年度は 154 人であった。生活訓練事業の年度末時点での登録者数は令和 3 年度から 4 人減の 12 人、デイ事業の登録者数は令和 3 年度から 8 人増の 34 人、障害者就労支援事業の相談者は令和 3 年度 79 人に対し、令和 4 年度は 92 人であった。
相談者は増加しており、生活訓練よりもデイ事業に登録される方が多かった。

〇令和 4 年度も引き続き相談件数の増加が見られた。特に電話相談および来所相談、訪問活動の件数が多く増えていた。

〇当事者の茶話会であるカモミールの会の出席者平均は 2.3 人で、令和 3 年度に比較して参加者が減って

いる。

〇若者の相談増加に伴い、電気通信大学の障害学生支援室や発達障害の学生や若者を対象としたプログラムを実施している昭和大学烏山病院等と情報交換を行った。

実績等

１　生活支援事業（障害者就労支援事業を除く）

（１）相談の概況

発達障害者支援事業の相談者実人数は 154 人で、令和 3 年度から増加している。ここでは、発達障害に関する診断を受けている、もしくはその可能性を医師から指摘されている人を計上している。

関係機関連絡には変化が見られなかったが、電話相談、来所相談、訪問活動の件数がそれぞれ 100 件程増加している。

表1　発達障害者支援事業 相談方法の内訳と件数(就労支援事業除く)

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
電話相談	1,487	1,352	1,997	2,321	2,438
来所相談	933	882	929	946	1060
訪問活動※	261	241	239	357	452
関係機関連絡	611	733	1340	1642	1695
その他	32	57	136	147	77
合計(件)	3,324	3,265	4,641	5,413	5,722

※同行支援を含む

相談内容別でみると「日常生活に関する相談」が減少し、「健康・医療に関する相談」が約 300 件、「福祉サービスに関する相談」が約 200 件増加した。「作業所に関する相談」も約 150 件増加し、相談合計約 300 件の増加となった。

表2 発達障害者支援事業 相談内容別件数(就労支援事業除く)

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
日常生活に関する相談	2,141	2,031	2,533	2,920	2,416
健康・医療に関する相談	229	188	406	512	816
福祉サービスに関する相談	483	575	1043	1286	1468
社会復帰に関する相談	215	158	403	402	449
作業所に関する相談	146	232	180	192	347
就労に関する相談	109	81	75	100	226
その他	1	0	1	1	0
合計	3,324	3,265	4,641	5,413	5,722

（２）生活訓練事業の利用状況

発達障害者支援事業の対象者で、令和 4 年度末時点での生活訓練登録者は 9 人で登録者全体の約 27%を占めていた。

表３　発達障害者支援事業における生活訓練の利用件数

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
グループワーク	494	624	552	613	505
選択制プログラム	303	432	235	139	165
デイルーム、ベース利用	372	505	220	279	133
合計	1,169	1,561	1,007	1,031	803

（３）デイ事業の利用状況

発達障害者支援事業の対象者で、令和 4 年度末においてデイ事業登録をしている人は 34 人であり、全デイ登録者数のうちの約 23%を占めていた。デイルームの利用、選択制プログラムの利用ともに大幅に増加した。

表4　発達障害者支援事業におけるデイ事業の利用延べ件数

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
デイルームのみ利用	188	136	84	58	195
選択制プログラム	247	322	355	365	519
合計(件)	435	458	439	423	714

２　障害者就労支援事業「就労支援室ライズ」

発達障害者支援事業対象者で就労支援事業を利用した実人数は 92 人であり、令和 3 年度の 79 人より増加している。

表5　発達障害者支援事業 相談方法の内訳と件数(就労支援事業のみ)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
電話相談	579	614	536	556
来所相談	535	667	616	626
訪問・同行※	281	152	245	274
メール等	51	66	49	88
支援室利用	29	66	83	1
就労プログラム	109	44	84	77
合計(件)	1,584	1,609	1,613	1,622

※訪問活動は同行支援、企業支援を含む

表6 発達障害者支援事業における就労支援の内容別相談件数

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
就労支援 職業相談、就労準備支援、就職活動支援、職場定着、職場開拓、離職支援	1,240	1,171	1,217	1,215
生活支援 日常生活、職業生活、社会生活、将来設計	338	329	397	419
合計(件)	1,578	1,500	1,614	1,634

３　その他

（1）普及啓発活動

普及啓発活動の一環として、毎年発達障害に関する講演会を行っている。令和 4 年度は、田中　哲氏(子どもと家族のメンタルクリニック　やまねこ　院長、社会福祉法人子どもの虐待防止センター　理事)をお招きし「青年・成人期の発達障がい～周りができること・理解と支援のポイントについて～」講演いただいた。令和3年度同様、来場とオンデマンドのハイブリッド方式で 227 人の参加があった。

（２）心理検査・心理相談

令和４年度は３件だった。新たにWAIS-Ⅳのフォームを臨床心理士と協議して導入した。またその検査の重要性においては、内部研修で心理検査について学ぶ機会を設けた。

（３）カモミールの会

発達障害当事者の茶話会として毎月第４月曜に「カモミールの会」を開催している。令和４年度は年12回開催した。令和３年度は12回開催で参加人数が延べ43名であったのに対し、令和４年度は12回開催して、延べ参加人数は28名であった。平均参加人数が3.5から2.3名に減少した。令和３年度は当事者が集まって話をする場に参加してみたいという自発的な動機を持った参加者 2 名が安定して参加され、時々で新しい方の参加があった。テーマは「感覚的に苦手なこと・もの」「対人関係の工夫」「うっかり対策」など、参加メンバーで次回に話したい内容を決めて開催した。

分析・課題

〇生活支援、就労支援のどちらにおいても相談者数、相談件数に増加が見られた。ご本人との直接の面談だけではなく、医療機関を含めた関係機関との連絡や同行支援、通所先や会社への訪問支援等、様々な形できめ細やかな相談支援を行っていたことがうかがわれる。

〇発達障害者支援事業の対象者で、令和４年度に新規で生活訓練でグループワークを利用することを選択する方とデイ事業でプログラムやデイルーム利用をすることを選択する方は同数だった。
生活訓練に登録している人は、様々な選択制プログラムを利用するというよりは、グループワークに絞って参加し、早い段階で就労移行支援事業所や就労継続支援Ｂ型事業所と併用している方が多くみられた。その一方でデイ事業登録者のプログラム参加者数やデイルーム利用人数は増加しており、外出先、活動先として求められていることがうかがわれた。

〇カモミールの会は、少数ではあるが自身の特性に関する話を他者と共有したいという動機付けの高い参加者が継続的に参加された。当事者会として参加者各々で共通性を見出し、共有・共感するだけではなく、違う感覚や対処を知り、尊重しあう姿も見られた。このような場が継続していくためにも、様々な当事者が関心を持ちやすいテーマ設定や周知の工夫が必要である。

第６　特定相談支援事業

結果の概要

〇継続相談の方で障害福祉サービスの利用が必要になり新規利用計画作成に至る方が主であった。

〇基幹センターである調布市障害福祉課からの依頼を受けて、より支援を必要とする利用者の計画も作成した。

〇市主催「福祉サービスあり方検討会」に参加したり、事例検討会を開催し、スキル向上に努めた。

〇調布市障害福祉課に講師を依頼し加算についての内部研修を行った。

実績等

表１　特定相談支援事業における利用者数の内訳

	令和３年度	令和４年度
利用者総数	232 人	227 人

初回相談者数	56 人	50 人
利用終了者数	33 人	57 人
サービス等利用計画作成件数	275 件	270 件
モニタリング作成件数	614 件	675 件

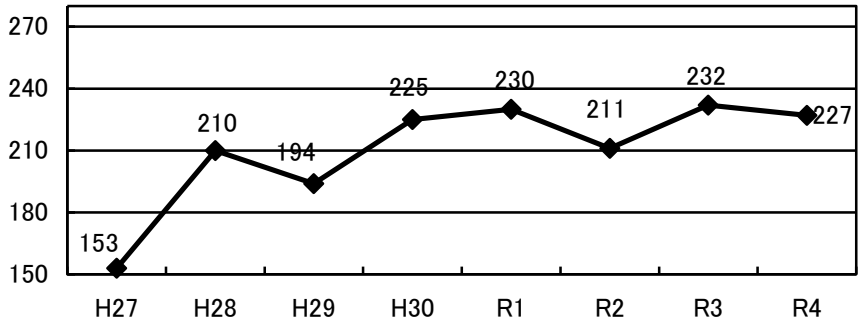

図1　利用者総数の推移

分析・課題

〇利用者総数は初回相談者数と利用終了者数で増減し、230 件程度を推移している。

〇初回でサービス利用計画を作成した方は、大半が自立訓練や就労継続 B 型、就労移行といった通所サービス利用開始に伴う計画作成だった。

〇入院や就労等による障害福祉サービスの利用終了や転居のため利用終了になる方が 57 人いた。

〇計画を作成することにより利用者自身が利用するサービスを把握し一緒に確認できるため、支援を継続していく際に有効なツールとなっている。また、定期的にモニタリングをすることで、サービス利用開始当初の目標等を確認できることから、サービスを利用する目的や意欲を維持することが可能となっている。

〇利用者の情報を共有するため、毎日の朝会や定期的な会議で随時情報共有する機会を設けている。そのため、担当以外の職員もそれぞれの利用者の状況を把握でき、支援の向上につながっている。

〇生活支援係、就労支援係の全職員が計画作成に携わり、平均 10 人程度の計画を作成している。

第７　本人・家族支援

１　本人活動支援

結果の概要

〇家族学習会やプログラムで、センターおよびライズ利用者が、就労までの経緯や就労後の定着について体験談を語ることで、当事者のみならず関係者や家族に障がい理解が深まった。体験談を語った利用者自身も、自身のこれまでを振り返りながら、他人の役に立ったという実感を持ち、自信をつけられる機会となった。

〇こころの健康支援センター運営委員会には利用者が委員として参加され、当事者の意見を反映させている。

実績等

（１）当事者講師活動

実施日	内　容	講師　人数	参加人数
7 月 16 日(土)	就労講演会	ライズ利用者 2 人	56 人
9 月 10 日(土)	ﾋｭｰﾏﾝﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ (人材ｾﾝﾀｰ事業)	ライズ利用者 1 人	12 人
9 月 29 日(木)	家族学習会「生活」	センター利用者 2 人	15 人
11 月 25(金)	就労準備プログラム	ライズ利用者 2 人	5 人
11 月 30 日(水)	先輩の話を聞く会	センター利用者 3 人	6 人
1 月 14 日(木)	家族学習会「就労」	ライズ利用者 2 人	10 人

（２）委員会等への参加

委員会名	委　員
調布市こころの健康支援センター運営委員会	ライズ利用者 1 人

２　家族支援

センターでは家族支援として、家族学習会を例年開催している。

結果の概要

〇9 回開催し、親や子、兄弟など延べ 109 名（令和 3 年度は 8 回開催し延べ 91 名）の参加があった。

〇各会の後半に実施した交流会では、互いの状況に共感したり、長年家族と向き合っている方からの言葉に安堵したりする様子も見られた。

〇当事者の方々から、これまでの病状・当センターや作業所等の利用について・家族との関係性・障害者雇用で働く状況などを話していただき、これまでを振り返るとともに今後について考えるきっかけになった。

〇SST（社会生活スキルトレーニング）においては、日常生活での家族とのコミュニケーション場面を想定した演習を行うなかで、それぞれの立場からの新鮮な意見を出し合っていた。

〇将来における選択肢の一つとして、作業所とグループホームの見学に行った。実際に見聞きする中で、より理解が深まった。

〇精神障害者家族会かささぎ会と懇談会を行い、学習会として親なき後に備えておくべき流れを具体的に学びたい希望が出ており、そういったニーズに即したテーマを検討していく。

実績等

（１）　家族学習会の実施内容

No	実施日	内 容	講 師	参加人数
1	5 月 26 日(木)	「障害福祉サービスとこころセンターの現状について」	障害福祉課　千葉氏 当センター長	21 人

2	6 月 30 日(木)	「日々に活かせる SST」	精神保健福祉士 清水有香氏	10 人
3	7 月 28 日(木)	「一人暮らしを支える制度について」	福祉総務課　永田氏 調布社協　鈴木職員	15 人
4	9 月 29 日(木)	「当事者に聞く　今日に至る日々」	センター利用者	15 人
5	10 月 27 日 （木）	「家族との向き合い方について」	精神科医 石山淳一氏	11 人
6	11 月 24 日(木)	「安心して地域生活を送るために～訪問看護～」	ゆっくりサテライト調布 松本雄大氏	8 人
7	12 月 22 日（木）	「日々に活かせる SST」	精神保健福祉士 清水有香氏	9 人
8	1 月 14 日(土)	「働いている方からのお話(当事者報告会)」	ライズ登録者	10 人
9	2 月 8 日(水)	「安心して地域生活を送るために～グループホーム･作業所～」	くすのき会職員 寺島氏･丸谷氏	10 人

※SST…社会生活スキルトレーニング

分析・課題

〇どのような病・障がいなのか、今後どのような状況になり得るのか、それに伴い家族はどのようにしていったらよいのか、など家族の抱える不安は大きい。また、日々の生活の中で、孤軍奮闘している姿もうかがえる。そのため、これからも様々な角度から情報提供し、他の家族と繋がれる機会となっていくことが求められている。

第８　普及啓発

１　講演会の開催

結果の概要

〇就労講演会は、基調講演前半では、アフラック・ハートフル・サービス株式会社より障害者雇用の取り組みや長く働きづけるために大切にしていることを話していただき、後半は当事者の方から就労までの道のりや就職してからの苦労や工夫、家族との関わり方等を話していただいた。講演会後のアンケートでは 54 人の方が回答し、「大変良かった」という声を多くいただいた。

〇 発達障害者支援事業普及啓発講演会「青年・成人期の発達障がい～周りができること・理解と支援のポイントについて～」は令和 3 年度に引き続き、来場とオンデマンド配信のハイブリット方式で実施した。家族、支援者、当事者など様々な方に受講いただくことができた。

〇 こころの健康講演会「マインドフルネスの基本的な理解と実践」は、会場での開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により、収録し限定公開でのオンデマンド配信となった。オンデマンド配信で都合の良い時間に視聴出来て良かったという意見や会場で開催してほしかったという意見もあった。

実績等

＜内容と講師、参加人数一覧＞

No.	実施日	内容	講師	参加人数
1	7 月 16 日（土）	「精神障がい・発達障がいのある方が企業で働くために」	アフラック・ハートフル・サービス株式会社（矢野氏・安達氏・五十嵐氏、ライズ登録者）	56 人
2	9 月 3 日(土)	「青年・成人期の発達障がい～周りができること・理解と支援のポイントについて～」	田中哲氏（子どもと家族のメンタルクリニック やまねこ 院長、社会福祉法人子どもの虐待防止センター理事）	会場 37 人 ネット配信 190 人
3	12 月 19 日（月）より配信開始	「マインドフルネスの基本的な理解と実践」	佐渡充洋氏（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室および同大学ストレス研究センター専任講師）	215 人申込み
4	2 月 4 日（土）	「ストレスとうまくつきあうために」～認知行動療法～（健康推進課共催）	大野裕氏（精神科医・大野研究所所長）	会場 37 人 ネット配信 347 人

２　セミナーの開催

結果の概要

〇調布市障害者就労支援実務者会議の主催で実施し、オンラインにて開催した。障害者雇用に取り組む、企業より、障害者雇用の取り組み内容を具体的お話しいただき、後半は活発な質疑応答も行った。アンケートでは、地域の支援機関と企業が一緒に取り組むことは、障害者雇用の促進や就労定着率を高めるためにとても効果的だという感想があった。

	日程	内容	登壇者	参加企業数・人数
1	2 月 17 日	企業向けオンラインセミナー 「障害者雇用 それぞれの一歩」 ～私たちは地元の企業を応援します～	①「法制度・雇用情勢について」ハローワーク府中雇用指導官　岩屋口氏 ② 基調講演 第1部　ジブラルタル生命保険会社　山田氏 第2部　レバレジーズ株式会社　栗原氏	20 社 23 人

３　情報誌の発行・ホームページでの情報提供

結果の概要

〇広報誌「CoCo だより」は、新型コロナウイルスの影響による掲載内容の変更があったものの、隔月（偶数月）1,600 部、講演会開催のある月は 1,700 部を当初の予定通り発行した。センター利用者によるイラストを積極的に用い、投書コーナーを設ける等、利用者も関わることのできる紙面づくりをこころがけた。

〇ホームページでは、講演会の情報発信を行うとともに、申し込みフォームとしても活用した。

第９　地域との連携

１　調布地域精神保健福祉ネットワーク連絡会事務局

結果の概要

〇令和３年度の46団体49施設から、巣立ち会の巣立ちホーム・KIZUNAの柴崎駅前教室・地域福祉コーディネーター（CSW）が新たに加入し、46団体52施設となった。

〇新型コロナウイルスの影響で、調布地域精神保健福祉ネットワーク連絡会は、Zoomを活用しての開催とし、例年行っている施設見学会は中止とした。

〇障害福祉課より「報酬改定について」情報共有した。

〇令和３年度に抽出された地域課題から、３つのテーマに絞り、全４回の連絡会を通して下記の３ググループに分かれ、各テーマについて取り組んだ。

① 住まいの支援：住居支援を行いやすくするよう、グループホームの空き状況を共有するメーリングリストを整備した。また、調布市居住支援協議会会長サイトーハウジング斉藤社長を連絡会へ招き取り組みについて話をしてもらい、後日斉藤社長・住宅課との住宅支援に関する意見交換会を実施した。調布市居住支援協議会からも、精神障害者への理解を深めたいということから、こころの健康支援センターでの支援について話す機会を設けてもらった。

② 社会資源の見える化：様々な社会資源を円滑に利用できるよう、調布市に関わる関係機関（行政・計画相談・B型作業所・就労移行・訪問介護・訪問看護・医療機関・放課後等デイサービス・グループホーム）の名簿を分野・項目ごとに作成した。

③ 訪問看護のリスト化：訪問看護事業所の特色や強みを把握しやすいよう、訪問看護のリストを作成していくことになったが、同時期にちょうふ在宅医療相談室が作成していたことがわかり、今後掲載してほしい項目や広報の方法を話し合い、ちょうふ在宅医療相談室へ共有し次回の更新時に役立ててもらうこととなった。

（１）令和４年度調布地域精神保健福祉ネットワーク連絡会参加機関一覧

No.	参加機関名称	No.	参加機関名称
1	医療法人社団青山会　青木病院	25	特定非営利活動法人だいち第一作業所
2	医療法人社団欣助会　吉祥寺病院		特定非営利活動法人だいち第二作業所
3	社会福祉法人くすのき会　調布くすの木作業所		特定非営利活動法人だいち第三作業所
4	クッキングハウス	26	公益財団法人　調布ゆうあい福祉公社
5	社会福祉法人新樹会　希望ヶ丘	27	訪問介護NPO・はこべ
6	社会福祉法人巣立ち会　シンフォニー	28	ちょうふの里指定訪問介護事業所
	社会福祉法人巣立ち会　こひつじ舎	29	らぷらんど調布
	社会福祉法人巣立ち会　巣立ちホーム	30	ATLIFE調布
7	調布市精神障害者家族会　かささぎ会	31	ひ乃木ケアリング
8	医療法人社団研精会　東京さつきホスピタル	32	ハーツ訪問看護リハビリステーションつつじヶ丘

9	特定非営利活動法人　リフレッシュ工房	33	たんぽぽ訪問看護国領
10	都立多摩総合精神保健福祉センター	34	アットリハ調布
11	都立多摩府中保健所	35	Cocorport 調布 office
12	調布市福祉健康部高齢者支援室	36	合同会社　マーレ相談支援事業所
13	調布市福祉健康部生活福祉課	37	LIIMO 調布
14	調布市福祉健康部健康推進課	38	キナリヤ
15	調布市福祉健康部障害福祉課	39	シエル相談支援センター
16	調布市子ども発達センター	40	グループホームアクア
17	生活支援ネットアーリーバード	41	KIZUNA 調布
18	調布はしもとクリニック		KIZUNA 柴崎駅前教室
19	都丸メンタルクリニック	42	Amu.あむハウス
20	調布病院　調布訪問看護ステーション	43	訪問看護ステーションデライト調布
21	調布市医師会訪問看護ステーション	44	すこっぷ
22	がじゅまる訪問看護ステーション	45	グループホーム風の音
23	多摩川病院居宅介護支援事業所	46	地域福祉コーディネーター
24	ウィズユー訪問看護ステーション		調布市こころの健康支援センター

（２）事業内容

No.	実施内容	実施回数	参加者・団体総数
1	世話人会	4 回	27 団体
2	連絡会	4 回	116 団体
3	施設見学会 ※新型コロナウイルスの感染状況を鑑み実施せず	0 回	0 人
4	勉強会 ※グループワークを主として行った為実施せず	0 回	0 団体
5	居住支援協議会会長との意見交換会	1 回	9 団体

２　その他連絡会等への参加

結果の概要

〇調布市障害者自立支援協議会（全体会、ワーキング、運営会議）、調布市障害者就労支援実務者会議、調布市子ども・若者支援地域ネットワーク会議、調布市相談支援包括化推進会議（本会議、部会、8050 専門部会）等に参加し、情報交換を行った。

３　関係機関との連携

結果の概要

〇調布市（障害福祉課、健康推進課、生活福祉課、高齢者支援室、市民相談室）、保健所、都立多摩総合精神保健福祉センター、医療機関、相談支援機関、ハローワーク、職業センター、地域包括

支援センター、教育相談所、子育て支援機関、民生児童委員等、多様な機関と連携、協働した。

４　ボランティアとの協働

結果の概要

〇ボランティアや講師等、外部からの協力を得て、各種プログラムや行事を円滑に実施することができた。

〇布田小地域交流事業と同時に開催している布田わくわくひろばまつりは、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、布田わくわく活動展として実施した。地域団体・こころの健康支援センターの紹介や、こころの健康支援センター利用者の作品展示等を行った。その際、こころの健康支援センター利用者からも準備や当日のボランティアを募り、14 名の協力を得られた。

〇木洩れ陽サロンは、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、令和 4 年 11 月より再開した。CoCo オアシスは、感染症対策に配慮しながら実施した。

実績等

協力内容

No.	内　　容	年間実施回数	Vo、講師延べ人数（個人、団体等）
講師・ボランティア			
1	生活訓練プログラム グループワーク	294 回	61 人
2	選択制プログラム（合同プログラム含む） パソコンはじめの一歩・ビジネスパソコン・MOS コース・リラックスヨーガ・卓球・楽スポ・ストレッチ体操・ラン＆ウォーク・うたごえ喫茶・合唱・毛筆・硬筆・アロマ・ハンドメイドクラブ・SST テキストコース・SST・就労準備プログラム・作業所見学プログラム・ユースプログラム・ママカフェたんぽぽ・カモミールの会・先輩の話を聞く会・布田わくわく活動展ボランティア・大掃除・畑・めだか・生活クラブ＋・イラスト・鉄道クラブ	329 回	191 人
3	就労プログラム 就労ＳＳＴ、就労ミーティング、音楽鑑賞、アロマ、ストレッチ体操、ボッチャ、クリスマス会、うたごえ喫茶、精神科 Dr との座談会	18 回	21 人
4	布田わくわく活動展	1 回	14 人
5	家族学習会	9 回	12 人
6	サロン 木洩れ陽・CoCo オアシス	17 回	47 人
	合　　計	669 回	346 人

※MOS コース…マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト資格取得に向けたプログラム

※SST…社会生活スキルトレーニング

５　近隣地域との連携

結果の概要

〇「調布市こころの健康支援センター地域のつどい・布田わくわくひろばまつり」は、地域住民である実行委員の熱意と主体的な活動により、毎年にぎわいを見せ、世代間交流と合わせて精神障がいについての理解を広げる機会となっているが、新型コロナウイルスの影響により、令和 2 年度・3 年度は中止していた。令和 4 年度は感染状況を鑑み、地域団体の活動報告やこころの健康支援センターのグループワークやプログラムの活動や利用者個人の作品紹介の場として、布田わくわく活動展を実施し、約 170 名が来場した。

〇布田小地区協議会（布田小地区ハッピータウン協議会）運営委員として、運営委員会に参加した。

（１）調布市こころの健康支援センター地域のつどい

〇令和 3 年度は、新型コロナウイルスの影響により地域のつどいが実施できないことから、代替企画として、『CoCoDeCo2021』と称し、密にならない形で地域と繋がれるよう地域団体や子ども達からのメッセージをこころセンター内に飾り、クリスマス期間に合わせてライトアップを行ったが、令和 4 年度も、布田わくわく活動展と合わせて、参加者・来場者からのメッセージを飾り、10 日間『CoCoDeCo』としてライトアップを行った。

第１０　運営管理業務

１　運営委員会

結果の概要

〇専門家、関係機関、市民の代表を委員として運営委員会を開催し、提案された意見や助言をもとにサービスの質の向上と透明性の確保に努めた。

実績等

（１）　こころの健康支援センター運営委員（第 8 期）

任期：令和 3 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

（敬称略）

	氏　名	選出区分
委員長	稲沢　公一	学識経験者（東洋大学教授）
副委員長	瓦林　紀子	市民有識者
委　員	古谷　清二	市民有識者
委　員	小森　隆裕	市民有識者
委　員	原　綾子	東京都多摩府中保健所
委　員	篠井　悦子	調布市精神障害者家族会かささぎ会
委　員	辻田　潤	調布地域精神保健福祉ネットワーク連絡会
委　員	吉賀　裕子	調布市民生児童委員協議会
委　員	円舘　玲子	地域関係機関（調布市社会福祉事業団ちょうふだぞう）
委　員	新津　敏男	地域関係機関（布田南部自治会）

委　員	小島　秀人	調布市福祉健康部障害福祉課
委　員	伊藤　聖子	調布市福祉健康部こども発達センター
委　員	泉　三奈子	調布市福祉健康部健康推進課
委　員	嵐　裕治	社協関係（理事）

（２）令和４年度　こころの健康支援センター運営委員会開催状況

回数	開催日	内容	出席人数
第１回	５月16日 ハイブリット形式	令和３年度事業報告及び決算（案）	12人
第２回	11月４日 ハイブリット形式	令和４年度上半期事業の実施概要の報告、 令和４年度下半期の事業運営について	14人
第３回	２月20日 ハイブリット形式	令和５年度事業計画（案）について 令和４年11月以降の事業報告 令和４度　各委員より意見・感想	13人

２　団体室の貸出

結果の概要

〇市内の精神保健福祉にかかわる各種団体や公的機関に団体室の貸し出しを行い、活動の支援を行った。令和４年度の登録は10団体となっている。

実績等

〇　団体室利用状況　年間合計70回

３　職員研修等

結果の概要

〇東京都や多摩総合精神保健福祉センター、東京障害者職業センター、その他関係機関が実施する各種研修会に参加した。

〇通常の内部研修に加えて、経理やZoomの利用方法についての研修を実施した。

〇相談支援の質の向上をはかるためのアセスメントや関係性の築き方、計画相談についての研修、職員のメンタルサポートを行うための茶話会を実施した。

〇外部の専門家にスーパーバイズを依頼し、毎月第二金曜日に事例検討会を行った。日頃の支援のあり方を振り返り、より良い支援について学ぶ機会となった。

実績等

〇職員内部研修・会議

	日時	研修内容	講師名
1	５月20日（金）10:00～12:00	医学研修	嘱託医　伊藤真人医師
2	① ６月20日（月）15:30～17:00 ② ７月25日（月）15:30～17:00	階層別茶話会	新村順子氏 東京都医学総合研究所
3	７月15日（金）10:00～11:30	精神保健福祉の変遷、およびに	山本雅章氏

		センター設立背景について	調布市社会福祉事業団
4	7 月 7 日（金）～　年度末	くすのき会交換実習	
5	8 月 29 日（月）	生活・就労支援係合同会議	
6	9 月 9 日（金）10:00～12:00	改めて心理検査について考える	ここあ職員
7	10 月 21 日（金）10:00～12:00	計画相談支援研修～加算編	障害福祉課　小島氏
8	1 月 30 日（金）15:30～17:30	アセスメント研修	新村順子氏 東京都医学総合研究所
9	2 月 13 日（金）10:00～12:00	虐待防止・身体拘束適正化に関する研修	
10	3 月 6 日（金）10:00～12:00	子ども若者支援研修	ここあ職員
11	3 月 7 日（火）16：00～17：15	医療観察法及び社会復帰支援について	社会復帰調整官

〇事例検討会スーパーバイザー（全 12 回）

伊藤真人医師（嘱託医・こころのクリニック調布）

新村順子保健師（財団法人東京都医学総合研究所）

東京都多摩府中保健所職員、調布市福祉健康部障害福祉課職員

相談支援事業所ドルチェ職員、相談支援事業所希望ヶ丘職員

〇情報交換会

10 月 18 日　障害者生活・就労支援センターちょうふだぞう職員

1 月 31 日　多摩棕櫚亭協会職員

４　感染症対策

結果の概要

〇感染拡大防止に備えた物品の整備、職員の密を避けるための環境整備、在宅勤務を推奨し、オンラインでの会議や研修・イベントを実施しながら対策を図った。

実績等

・PCR 検査（唾液採取方式）の実施　　年間 6 回実施のべ 263 人検査

日程：5/23（月）、6/27（月）、8/29（月）、9/26（月）、1/16（月）、2/20（月）

対象者：生活訓練事業登録者および職員・受付・清掃員

・飛沫板の設置（事務室）、自動検温器等の整備

・在宅勤務の実施（研修動画視聴・Zoom による会議の参加、事務）

・他機関との会議・面談等における Zoom での開催

・職員 Zoom 研修の実施